

## 5. 給水

地震と津波によりすべての地区で断水した。水道の普及は徐々に進められ通水が始まったが、平成23年(2011)4月7日の余震により、また、断水となった地区もあった。

そのため、石巻地方広域水道企業団、石巻広域管工事協同組合、全国各地の水道事業者、自衛隊によって給水が行われた。

常時給水箇所が設けられ、断水の間、被災者は、そこで水を調達した。水は、生活に欠かせないものであるが、重く、運ぶのに力が必要であることから、被災生活の困難さの象徴でもあった。



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲自衛隊の支援



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲不動町



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲中央



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲田代浜



## 6. 炊き出し

発災直後から自衛隊による炊き出しが行われ、その後、多くの民間ボランティアによって炊き出しが行われ、被災者に振る舞われた。

自衛隊の炊き出しは平成23年(2011)6月27日で終了したが、民間の炊き出しは、その後も続き、平成23年(2011)10月10日まで行われた。

炊き出しの調整は、NPO団体等の集まりである石巻災害復興支援協議会によって行われ、協議会では、炊き出し支援を実施する団体等からの申し出を受け付け、重複しないように炊き出しニーズのある場所を紹介し、平成23年(2011)2011年3月の調整開始から平成23年(2011)10月11日までに通算約878,000食(平成23年(2011)5月13日の法人化からは約381,000食)の炊き出し調整を行った。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲専修大(南境新水戸)



ピースポート災害ボランティアセンター 撮影者//上野祥法

▲南境新水戸



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲穀町 (国交省)



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲穀町 (国交省)



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲湊大門崎



## 7. 入浴支援

避難所に避難した市民に加え、地震による断水、停電等により、たとえ家が無事であっても、入浴ができない市民も多かった。

そのため、自衛隊による入浴支援は、平成23年(2011)3月22日から始まり、7月下旬まで続いた。自衛隊撤収後は、ボランティア団体が入浴支援を行った。

市では、仮設浴場までの循環バスを運行し、被災者の入浴支援にあたった。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲ピースポート仮設風呂



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲北上の湯の跡にできた仮設風呂



▲自衛隊の入浴支援



▲自衛隊の入浴支援



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲立町一丁目 (石巻サンプラザホテル脇)



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲湊小 (吉野町一丁目)



## 8. 医療支援

医療支援は、主に県や赤十字病院を中心に行われた。

宮城県東部保健福祉事務所『石巻からの活動報告—東日本大震災から1年の軌跡—』によれば、県DMAT調整本部の立ち上げが発災直後にあったが、平成23年(2011)3月12日～16日(DMAT活動期)においては、全国から参集した120チームのDMAT活動の調整が行われたが、状況が十分に把握できず、円滑な活用まで至らなかった。また、災害医療コーディネーターによる患者搬送の調整が行われた。さらに、各医療機関の被災状況の把握等が継続実施され、必要な情報がホームページ等で提供された。被災した医療機関への物資や資器材の提供も継続された。

平成23年(2011)3月17日以降(DMAT→医療救護班への移行期)においては、要請を受け派遣された医療救護班が続々到着し、活動を開始した。医療救護活動の体制構築および円滑な連携のため、災害医療対策本部が設置され、被災地域における医療および保健施策の強化が図られた。設置当初は各避難所の状況把握が困難であったが、石巻赤十字病院を中心とした医療救護班による巡回診療および避難所アセスメントの実施により、円滑な情報収集が可能となった。医療救護班の連携により、避難所への保健対策業務および物資補給がサポートされた。人工透析患者の県外への搬送も実施された。

地域医療の復旧、仮設診療所(病院)開設に向けた支援として、地域別意見交換会の開催や、被災医療機関等の仮設および再開へ向けた調整、仮設診療所等整備が実施された。

このように、多くの大学病院・民間病院・個人の医師、看護師等が石巻市にボランティアとして入り、医療支援を行った。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲南境新水戸(石巻専修大学)



▲渡波公民館



## 9. 死亡者の埋葬など

市内で約4,000人もの市民が主に津波により亡くなり、また、葬儀社・宗教施設も大きな被害を受けたところも多く、さらに身元確認を実施する必要もあり、死亡者の埋葬は困難を極めた。

遺体安置所は、発災直後を除けば、総合体育館(泉町)、旧青果花き地方卸売市場(門脇)、石巻北高校飯野川校(河北)、牡鹿体育館(牡鹿)に設けられた。

また、火葬場の能力が追い付かず、仮埋葬が行われた。672体が北鰯山墓地・上釜ふれあい広場等に仮埋葬され、その後夏までに火葬された。



▲市役所 仮埋葬受付



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲仮埋葬地 十三浜白浜



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲仮埋葬地 十三浜白浜